

気づき、考え、実行する さし人つつしん

唐津市立佐志小学校
学校だよりNO.9
令和5年7月19日
文責：校長 松野克己

3年生あすチャレ！スクール



7月12日(水)、昨年度に引き続き日本財団パラスポーツセンターの事業である「あすチャレ！スクール」を実施することになりました。内容は車いすバスケットボール体験プログラムであり、講師は昨年度も来ていただいた2000年シドニーパラリンピック、男子車いすバスケットボールで日本代表キャプテンをされていた根木慎志さんです。今回も関西弁ならではのテンポのいい話術で、子供たちが自然に言いたくなったり、拍手をしたくなったりするような場の空気を作られ、根木さんと子ども達の周波数が一つになっていく雰囲気を感じました。特に「応援の力」というテーマを終始ぶれなく伝えられる展開は、私たち教員にとって、たいへん勉強になりました。ご自分がシュートの試技を見せる時も、子供たちに応援を求め、シュートが成功したときはその応援の力による成功であることを

強調されました。また、子供たちが実際に競技用車いすを使って車いすバスケットボールの試合をする時も、応援の声が途切れることなく続いていましたし、一人一人の感想の中でも「応援が嬉しかった」といった言葉が続きました。最後の講話も車いすバスケットボールの話ではなく、ご自分が小学生の時に苦手で嫌だった跳び箱運動が友達の応援によって、楽しく感じられるようになったというお話であり、90分全体が、“応援の力”という「根木ワールド」に包まれていました。その他にも、成功や失敗という結果より、例え難しそうであっても、楽しみながらチャレンジすることが大切であることも話していただきました。3年生はこの体験で、障がい者への理解とともに、友達を励ます大切さや励まされる喜びやチャレンジする大切さについて体感したのではないかと思います。この体験が普段の友達関係や学習活動に生かされることを願っています。



からワンくんあいさつ運動

7月14日(金)の朝、毎年恒例となった「からワンくんあいさつ運動」がありました。子ども達に予告はしませんから、登校してきた多くの子ども達からは「わー！からワンくんだー。」という声が聞かれますし、特に低学年児童は、握手を求めたり体に触ったりと大喜びです。中にはだっこを求めたりする子もいましたね。ただ、背中チャックを見つけて下ろそうとしたり、叩いたりするのはNGです。それから、からワンくんがきっと困るだろうと思われるのは、「今日、どこからきたと？」といった質問をうけることです。もう、慣れてはいるでしょうが、つい答えたくなりそうですよね。

児童玄関前であいさつ運動をした後は、1年生の教室まで行ってくれました。初めて生で見る子もいて、ちょっとおっかなびっくりする様子をかわいらしく感じました。ちなみにからワンくんの誕生日は2008年4月13日だそうですから、今は15歳ということになりますね。それから、からワンくんのFacebookには先日の5年生地引き綱体験の様子がアップされています。(佐志小が佐市小になっていたのが残念！㊦)



平和への願いをこめて



の原因で他者から苦しめられたりしている人にとっては平和とは言えません。この集会のテーマは"戦争をなくそう"ではなく"誰もが平和な毎日を過ごすために、自分たちにできることをやっていきしょう"ということです。ぜひ、一人一人が何をしたいのか、何をしないでいいのかを考え、実行してください。」という内容です。自分も他者も大切にという学校教育目標との関わりも強い内容ですから、これからも機を捉えて考えさせたいと思います。

同じ7月14日(金)の1時間目には全校児童が体育館に集い、平和集会を行いました。計画委員会の進行で、はじめの言葉の後に「翼をください」を歌い、次にハートフル委員会による平和絵本の読み聞かせ、6年生による平和学習の発表と続けました。この6年生の発表は、長崎への修学旅行で学んだ原爆関連の報告でしたが、見学地や平和講話などのテーマごとに、簡潔にまとめられていて感心しました。その後に平和の誓いを全校児童で行い、最後に私から次のような話をしました。「ロシアとウクライナでは1年以上の間、罪のない人が殺される戦争が行われています。戦争は平和とはかけ離れた行為であり、絶対に許されないことです。では、今の日本は戦争をしていませんが本当に平和と言えるのでしょうか？校長先生はそうは思えないのです。平和とは誰もが心穏やかに毎日を過ごせることであり、いじめられたり、何らか

佐志小相撲キッズ快進撃！

相撲をしている本校の児童は、今年度「わんぱく相撲唐松大会」「市長旗杯」で高学年が2連覇をしており、16日(日)にあった県全体の学童オリンピックでも優勝し、グランドスラムとも言えるような結果を残しました。本当によく頑張りました。おめでとう！



J A杯第38回佐賀新聞学童オリンピック大会相撲競技(県相撲連盟・佐賀新聞社主催、J Aグループ佐賀特別協賛)は16日、

武雄市の白岩相撲場であり、団体は佐志クラブ(唐津市)が33年ぶり2度目の頂点に立った。

個人6年は村山杏慈(西唐津ク)、同5年は加茂侑朔(からつく)がそれぞれ優勝。同4年は山口愛貴(北方ク)が制した。

開会式ではJ Aバンク統括部の田中康孝部長が「鍛えてきた力と技を十分に発揮し、チームで団結して、すてきな思い出

がたくさん詰まった大会にしてほしい」と激励。県相撲連盟の脇山伸太郎会長、小松政武雄市長、佐賀新聞社の名古屋竜磨営業局事業部長がエールを送った。

団体の上位2チームと各学年の個人上位4人は、9月10日に鹿児島県である全九州わんぱく相撲大会に出場する。

(西浦福紗)



団体決勝リーグ 佐志ク「北方ク」副将戦でおりたおしを決める佐志クの清水楓汰(左) 〓武雄市の白岩相撲場

けがのエースを九州大会に

団体戦を制した佐志クの副将・清水楓汰エース(松下平良)がけがで出られず「平良を鹿児島に連れて行く」を合言葉にチームが一つになった。九州大会でもみんなで楽しく相撲がしたい。

健康で充実した夏休みに！

子ども達は夏休みに入ります。私たち学校職員の誰もが「けがや病気をしない健康な夏休みにして欲しい」ことを第一に願いますが、その後は「規則正しい生活を！」「しっかり宿題を！」「ゲーム三昧にならないように！」「迷惑をかけないように！」「SNSでトラブルにならないように！」と、その順番は担任によって違って来るのかもしれませんが。私は担任の時はずっと「充実した夏休みを！」と子ども達に伝えてきました。どういうことかということ、「今日は〇〇を頑張った(楽しめた)」と言えるような毎日を過ごして欲しいということです。「宿題を頑張った」「お手伝いをがんばった」はもちろんOKですが「友達とのおしゃべりが楽しかった」「スイカがすごくおいしかった」でもいいんです。それが言えるような毎日の積み重ねが充実した夏休みになると思います。子どもは大好きなハンバーグが食卓に出てだけでも心おどることがあるように、大人が忘れてしまった感性をもっています。その感性に響くような、時に楽しく、時にきつく、時においしい毎日を過ごしてくれることを願っています。